和教時報

2022年12月15日（木）発行　第1992号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

「未来をひらく教育のつどい」2022

知識や思いを糧に！エネルギー充電!!

全体会

和教組　教文部長　岩田　美和

十二月三日に「未来をひらく教育のつどい」二〇二二が開催されました。

全体会にはオンライン参加を含め一〇六名、分科会には一六四名の参加がありました。

全体会講師の東京大学教授本田由紀さんは東京からのリモート参加でした。「日本の教育の課題」について様々な視点と豊富なデータを用いて話されました。

国際的な比較で教育予算が先進国の水準より低いことや、一クラスの人数が諸外国に比べて多いことは知っていましたが、子どもたちの「生きる意味」を問う設問への肯定的な意見が最下位ということには衝撃を受けました。「子どもたちは多くの『〇〇する力』が求められ、スタンダードやマニュアル化が進められてきています。これでは子どもたち、教職員はこわれてしまう」また高校入試制度は「家庭を評価する装置」と批判し、語気を強められました。

さかのぼっては二〇〇六年の教育基本法の改定で、子ども達に必要な資質を態度で評価しようとしている事等を私達も問題視し、反対しましたが、今の学習指導要領はそれに直結した「評価改革」であると加えられました。

本田さんは数々の教育課題を批判するだけではなく、人を増員するために「三五人学級」の運動の先頭に立ってこられたこと、高校入試を最低限にすること、自由進度学習にすることなどを提案されています。「水平的多様性にしていくのは簡単だとは思っていない、でも必要だから求めている」という言葉に、大変励まされました。寄せられた感想の中には「総理大臣になって！」や「是非和歌山に来てもらい、じっくりもっと話を聞きたい」と言う声がありました。

今回「教育のつどい」のチラシに多数の著書を載せていますが、そこから学ぶべきことも多いのではないかと思います。どうぞご一読下さい。

ピンポイントスポット 406

作家の雨宮処凛さんたちが若者の「生きづらさ」について書いたのは、十数年前のことだ。市場原理、競争主義、自己責任を中心とする新自由主義による経済活動が、人々に与える問題を告発し、多くの共感を得た。

その後、リーマンショックによる派遣切りや東日本大震災、コロナ禍などの度に、この社会の脆弱性が明らかになったが、私たちは未だ問題の根本を変えられずにいる。

文科省の調査で不登校が増加していることが報道された。県内でも同じ傾向が続く。文科省は「コロナ」を理由にあげたが、本当の原因は違うことを多くの人は気づいているのではないか。産業界の思考が巧みに組み込まれた学校や社会を変えるために、教職員組合運動が重要になっている。

（K）

「未来をひらく教育のつどい」2022

人もレポートも思いも集った 分科会

分科会は三年振りに対面を基本とし、オンライン参加者も交えて実施することが出来ました。世話人の全員がレポーターをしてくれた分科会や、実践をビデオで撮って流した分科会、また障害児教育では会計年度任用職員さんのレポート希望もありました。多忙の中でも何とか県教研を維持し、盛り上げようという皆さんの思いの集った分科会でした。

各会場の様子をご紹介します。

・ほっこりする子どもを大切にした取り組みでした。学ぶことがたくさんありました。どの先生もレポーターの先生のように子どもに向き合える環境になればいいなと思いました。（六〇代）

・実験実習の重要性を再認識することができた。理想を言えば議論するために対面一本にしぼれないかと（六〇代）

・校種の異なる内容を聞くことができ、今自分が現場でできることを自分なりに考えることができました（三〇代）

・今後の実践に活かせる話ができました（三〇代）

・丁寧な実践でした。時間がないことをいいわけにせず、取り組まねばと思いました。（四〇代）

「教育条件整備」

・高校再編は本当に難しい問題ではあるが、避けては通れないと思った。（六〇代）

「外国語教育」

・小学校の英語実践の中身が聞け、悩んでるのは自分だけではないと知れて安心できるところもあった（二〇代）

「健康・性・食」

・LGBTQやジェンダー平等のおはなしを聞かせてもらうことがなかったので少しでも理解することができたように思います。食教育についても色々なとりくみと実際の教材を見せてもらい、大変勉強になりました。（五〇代）

「国語教育」

・観点別評価についての議論が深められたことは大変参考になった。観点別やめたい。（二〇代）

栄養職員部学習交流会

飯ごう炊さん・防災クッキング 大成功！

西牟婁支部　はまゆう支援分会　片山　和希

一一月二七日（日）に、栄養職員部学習交流会を川湯キャンプ場にて開催しました。

今回は、「飯ごう炊さん&防災クッキング」がテーマ。①カレー作り&かまどで炊飯②もしものときの防災クッキングの二本立てで実施しました。

①は、コロナ禍において、宿泊学習などで子どもたちが直火調理を経験する機会も減っていることから、栄養士・栄養教諭も改めて飯ごう炊さんの基本を再確認しようと企画しました。

かまどでの炊飯は火加減の調整が難しく、底を焦がしてしまいがちです。焦げつきを防ぐコツとして、じっくり沸騰させたあと底からかき混ぜることや、何度もふたを開けて目視でチェックすることなどを確認。できあがりは焦げつきなく、美しく仕上がりました。

②では、神倉小学校の大西先生の防災の実践から、袋入りスナック菓子で作れるオムレツ調理を行いました。

ポテトチップスを袋のまま細かく砕き、卵やチーズを加えて混ぜて湯せんするだけという、簡単かつ楽しめる内容。できあがりはとってもきれいで、味も美味しく、ストレスのたまる非常時にはうってつけの料理でした。

さらに、デザートにダッチオーブンで作った焼きリンゴも登場。お天気も快晴で、美しく色づいた紅葉を眺めながら食べる料理は格別でした。

最近では、学校行事や調理実習なども徐々にですが実施ができるようになっています。今回の学びを、そんな機会を通して子どもたちに伝えていきたいと思います。

県立人事定数交渉

一人ひとりと丁寧なヒアリングを

障害児学校部　書記長　山崎　浩廉

一一月三〇日（水）に県教育委員会と人事・定数交渉をおこないました。

人事面では昨年度からの課題も踏まえて、特殊事情のある教職員は十分に考慮して対応すること、障害児学校では同一校であっても、幅広い学齢期の児童生徒がおり、また多様な障害種別の教育経験ができることを指摘し、単純に高校や小・中学校とは違うことを訴えました。また丁寧なヒアリングをとおして、合意と納得の上での人事異動がおこなわれるように校長を指導することも訴えました。

定数面では、はまゆう支援からの四人の参加者から、学校の授業にかかわっての課題や寄宿舎運営の実態、給食調理の困難さなど、リアルな実態が語られました。

二〇二三年度から統合する南紀・はまゆうの校舎建設工事が遅れ、四月からは二つの敷地で学ばなければならないことについての課題や、知的障害教育と聴覚障害教育に取り組んできたはまゆう支援と、肢体教育に取り組んできた南紀支援それぞれの専門性の質が低下しないように、教職員定数の維持・増員を訴えました。

ぜひ あなたにも 読んでいただきたい この一冊

7 「へいわとせんそう」

（たにかわしゅんたろう 著者　ブロンズ新社）

日高支部　印南小分会　萩平　さおり

先日、組合の教育研究活動で、「子どもたちと絵本で学びたい感じたい」～平和って何だろう～というテーマで、先生方と交流する機会がありました。和歌山県の山の中にある本屋さん「イハラ・ハートショップ」店長の井原万見子さんに来ていただいて、テーマに関する本を紹介していただきました。

絵本の読み聞かせや紙芝居を舞台枠つきで、今回の研究活動のテーマに関する本を数冊、読んでくれました。ページがめくられるたびに、「次はどうなるのだろう…」という気持ちになったり、「あ、私もそういうことある」と共感したりしました。何冊目かで、「ちょっと、この場面怖いなあ～。悲しいなあ」と思っていたら、次の絵本では、「楽しい!!」と実感しながら、平和って何だろうと考えることができました。

絵本の読み聞かせをする時間を、学級づくりのひとつとして、あらためてやっていきたいなあと、思えた日でもありました。

現在担当させていただいている特別支援学級で、八月に『へいわとせんそう』（たにかわしゅんたろう著者　ブロンズ新社）を読み聞かせしました。子どもたちの中には、次はどんな場面なのかを知りたくて、すすんでページをめくる姿がみられました。

この本は、両開きで左右の絵と文を見て読んで、考え、次のページをめくると、また左右の絵と文を見て読んで、考え…の繰り返しです。この本も、井原さんが読み聞かせをしてくれました。読んでもらっている時は、両開きの左右のページをじっくり比較できて、文の意味をじっくり考えている自分がいました。絵本の読み聞かせが、こんなにも、想像力・聞く力・考える力を働かすものだったんだと実感しました。

組合の教育研究活動に参加すると、人や本の出会いがあったり、テーマについて交流できて勉強になるなあと思いました。私は、井原さんから紹介していただいた本を読んでいきたいと思っています。

年末・年始

県教育会館閉鎖のお知らせ

左記の通り会館を閉鎖しますのでお知らせします。

12月29日(木)～1月5日(木)

和教共済WKKからのお知らせ

12月29日から１月５日まで事業センター閉鎖のため、和教共済の業務は、休業となります。

自動車事故等発生時の連絡先

フリーダイヤル(24時間)

0120-36-7860

その他のご用件については1月6日以降に☎073-436-7860和教共済にご連絡下さい。

教職員と家族を守る
全教自動車保険

教職員の交通事故には特別な事故対応が必要です

なぜ特別な対応が必要なのか？その理由は50秒でわかる動画で

WEBでかんたん見積り依頼

かんたん その1　どちらかご用意ください
・現在自動車保険に加入中の方：保険(継続)証書(裏表)　※満期のご案内でも可
・初めて自動車保険に入る方：見積依頼ページへアクセスしてください

かんたん その2　見積依頼ページから入力

ホームページ　https:zenkyo-kyosai.jp/car/

全教自動車保険は、全教各教職員組合と東京海上日動が提携して行う団体扱・集団扱の自動車保険です